応急手当普及員再講習　指導技法評価シート

大分類	中分類	細項目	チェック
講議指導	応急手当の重要性	救急車が到着するまでの時間に、救急現場に居合わせた人が応急手当を実施すると救命率を２倍に高めることができる	
	ＡＥＤについて	ＡＥＤは、電源を入れれば音声ガイダンスが流れるので、初めての人も使用できる機器である	
		心臓がけいれんしている状態に対し、電気ショックが必要である	
		心肺停止から除細動実施まで、１分経過するごとに７～１０％生存率が低下することから、早期除細動が重要である	
	胸部確認項目	パッドを張り付ける前の胸の確認（か・き・く・け・こ）	
	ＡＥＤの付属品	レスキューセットの使い方 「フェイスシールド」、「ゴム手袋」、「はさみ」、「タオル」、「カミソリ」	
		未就学児の場合は「未就学児用パッド」「未就学児用モード」を使用 無ければ小学生～大人用パッドを使用する	
実技指導	周囲の安全の確認	周囲を確認せず近づくことの危険性（二次災害の防止）	
	反応の確認	肩を叩きながら耳元で声をかける（３段階位で行う）	
	助けを求める	周囲に大声で協力を求め、人を指定して119通報とＡＥＤの手配を依頼する	
	呼吸の確認	胸部と腹部の動きを見て、１０秒以内で普段どおりの呼吸があるか確認する（口は見ない）	
		普段どおりの呼吸ではない「死戦期呼吸」は心停止直後に現れる	
	胸骨圧迫	手の組み方と正しい姿勢で胸の真ん中を圧迫、解除する	
		「強く」　胸の厚さの約５cm沈み込むように強く	
		「速く」　１分間に100回～１２０回のテンポ	
		「絶え間なく」　３０回連続で途切れないように	
	人工呼吸 ※息の吹き込みはなし	頭部後屈顎先挙上法による気道確保（片手は額、もう一方は２本指で顎先を挙上する）	
		人工呼吸のやりかた（鼻をつまみ、口で相手の口を覆う）	
		１回１秒かけて胸が軽く膨らむ程度２回吹込む	
		吹込みは、成功失敗にかかわらず２回までとし、すぐに胸骨圧迫を始める	
	心肺蘇生法の継続	胸骨圧迫と人工呼吸は３０：２の割合で継続する	
		心肺蘇生法の中止時期 ①救急隊に引き継いだとき　②意識や呼吸が回復したとき　③自分に危険が迫ったとき	
	ＡＥＤの操作	ＡＥＤがあれば、その使用を最優先させ、音声ガイダンスに従う	
		上着を脱がし胸部表面を確認した後、イラストの位置にパッドを貼る	
		心電図解析中は離れるように指示（誤解析防止）	
		電気ショックを与えるときは離れるように指示（感電防止）	
		電気ショック後はすぐに胸骨圧迫から心肺蘇生を開始	
		救急隊に引き継ぐまでＡＥＤの電源は切らず、電極パッドをはがさない	
実技指導（その他）	成人と小児の相違点	①胸骨圧迫の仕方　②未就学児は未就学児用パッド（モード）の使用	
	成人と乳児の相違点	①反応の確認の仕方　②胸骨圧迫の仕方　③未就学児用パッド（モード）の使用	
受講者からの印象		自信を持って堂々と指導できる（受講者に不信感を与えないように）	
		受講者にとって理解しやすい工夫をしている	

・１人の持ち時間は30分

氏名	指導員コメント